

## 連載 患者目線の医療安全 7

## 群馬大学医学部附属病院で始まった「電子カルテの患者閲覧システム」は好評！



患者の視点で医療安全を考える連絡協議会 世話人 勝村 久司

## 電子カルテ閲覧システムが本稼働

群馬大学医学部附属病院（群大病院）の「患者参加型医療推進委員会」の2019年6月20日の会議で、群大病院が全国で初めて、電子カルテを患者や家族に閲覧できるようにしたシステムの利用者に対するアンケート結果を公表しました。

2019年4月1日から6月11日までに電子カルテを閲覧した6名の内、アンケートに回答した4名の主な結果は以下の通りです。

## ○電子カルテの操作はどうでしたか？

非常に簡単だった(2)、簡単だった(0)、少し難しい(2)、非常に難しい(0)

## ○カルテの記載内容は理解できましたか？

ほぼ理解できた(0)、まあ理解できた(4)、あまり理解できなかった(0)、まったく理解できなかった(0)

## ○カルテを閲覧して、改めて担当医などに質問したいと思ったことがありますか？

たくさんあった(0)、いくつかあった(3)、ほぼなかった(1)、全くなかった(0)

## ○カルテ共有（閲覧）の仕組みは、患者さんと病院や医療従事者との信頼関係を高めるために有用だと思いますか？

とてもそう思う(3)、まあそう思う(0)、あまりそう思わない(0)、全くそう思わない(0)、わからない(1)

## ○もしももう一度入院することがあったら、カルテ共有（閲覧）を希望しますか？

必ず希望する(3)、まあ希望する(1)、希望しない(0)、決して希望しない(0)、分からない(0)

## アンケートの結果は極めて好評

これらから、患者や家族が「電子カルテを操作できるのか」「カルテの中身を理解できるのか」という危惧は杞憂であることがわかります。

さらに、閲覧によって質問が生じ、より深い理

解につながっていく可能性もみてとれます。

また、閲覧によって質問が生じても、それが疑心暗鬼につながるのではなく、「信頼関係を高める」とする回答が多いことも特筆に値します。

自由記述欄に記載された以下の3件を読んでも、電子カルテの閲覧の有用性がわかります。

・とてもよいシステムだと思いました。離れて暮らす家族にとってどんな治療をうけてるのか、どんな状況なのか知ることができて安心しました。ただ、使い方が少しむづかしいことや、予備知識がないと見てもわからないかな…とも思いました。

・外来や診察のときに口頭で先生から話を再確認出来ました。病気の経過も時系列を追って把握出来るので自分の気持ちの整理にも役立ちました。患者其々に真摯に向き合って下さった先生方、医療関係者の方々の記録の集積に感謝の思いが湧きました。お陰様で希望に満ちた嬉しい退院となりました。(後略)

・閲覧する際、職員IDを入力してもらわなければならないため、すぐに閲覧したくてもできない。→不便。パソコンの電源が切れているため、毎回、パソコンが立ち上がるまでに時間がかかる。車椅子や点滴台を使用した状態でも利用しやすいように、スペースを広く確保して欲しい。日々のバイタルサインも閲覧したい。主治医や担当医がどのような治療方針なのか、今後の方針などカルテから情報を得られた。

この日の会議では、電子カルテの閲覧が可能であることを患者に周知できていないことが課題としてあげられていました。

ぜひ、群大病院には、アンケートで指摘された改善点に速やかに対応すると共に、電子カルテ閲覧システムをすべての患者に周知して、積極的に閲覧を勧めていってほしいと思います。それが、「患者参加型医療の推進」の第一歩になるはずで